

2025年8月20日

報道関係者
地域広報関係者 各位

国際日本文化研究センター

大学共同利用機関シンポジウム 2025 開催のお知らせ

国際日本文化研究センター（日文研）は、次のとおり、大学共同利用機関シンポジウム 2025 を開催いたしますので、周知へのご協力をよろしくお願いいたします。

テーマ：**大学共同利用機関って何？**

開催日時：**2025年10月4日（土）**
10時30分～17時00分（開場:10時00分）

会場：**国際日本文化研究センター 講堂**
京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地
YouTube ライブ同時配信 <https://youtube.com/live/ZROG9WDpQZw>

【Session 1】

大学共同利用機関の役割と機能
—大学共同利用機関だからこそできること—

【Session 2】

大学共同利用機関の共同利用を支える
—技術系スタッフの役割—

【Session 3】

社会とともに歩む大学共同利用機関
—よりよい未来を築くための連携の形を探る—

入場無料・申込不要

（現地参加、YouTube ライブ視聴共に、事前申込みは不要で出入り自由となります）

【概要】

大学共同利用機関は、それぞれの機関が持つ研究資源の共同利用を通じて、各学術分野を先導するさまざまな成果をあげてきました。これらの成果は、毎年開催される大学共同利用機関シンポジウムで紹介されてきました。一方で、研究予算や研究環境の変化、社会のニーズの多様化、各研究分野の高度化・専門化などにより、大学共同利用機関の役割や課題が機関や機構同士であっても相互に見えにくくなっています。そこで今回は「大学共同利用機関そのもの」に焦点を当て、各機関が一堂に会するこの機会に、さまざまな視点からその役割や課題を共有し、大学共同利用機関の今後を考えるきっかけとすべく、本シンポジウムを開催します。

詳しくは、特設ウェブページをご覧ください。

URL：<https://www.nichibun.ac.jp/kikansympo2025/>

※イベントの取材を希望される場合は、次の取材申込フォームにてお申し込みください。

取材申込フォーム <https://forms.office.com/r/HcQSnCHL8V>

大学共同利用機関 って何？

人間文化研究機構

国立歴史民俗博物館／国文学研究資料館
国立国語研究所／国際日本文化研究センター
総合地球環境学研究所／国立民族学博物館

自然科学研究機構

国立天文台／核融合科学研究所
基礎生物学研究所／生理学研究所
分子科学研究所

高エネルギー加速器研究機構

素粒子原子核研究所／物質構造科学研究所
(加速器研究施設／共通基盤研究施設)

情報・システム研究機構

国立極地研究所／国立情報学研究所
統計数理研究所／国立遺伝学研究所

宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
総合研究大学院大学

2025 (令和7年) **10/4** 参加無料・申込不要
(土) 10:30-17:00

国際日本文化研究センター

京都府京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地

YouTube同時配信

[https://youtube.com/
live/ZR0G9WdpQZw](https://youtube.com/live/ZR0G9WdpQZw)



公式Webサイト

[https://www.nichibun.
ac.jp/kikansympo2025/](https://www.nichibun.ac.jp/kikansympo2025/)



主催：大学共同利用機関協議会／一般社団法人大学共同利用研究教育アライアンス 後援：文部科学省

お問い合わせ

大学共同利用機関協議会 広報ワーキンググループ事務局(国際日本文化研究センター)

総合情報発信室事務局 広報係

〒610-1192 京都府京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地 E-mail:kouhou@nichibun.ac.jp (広報係)



大学共同利用機関シンポジウム2025

主催 大学共同利用機関協議会／一般社団法人大学共同利用研究教育アライアンス

後援 文部科学省

大学共同利用機関は、それぞれの機関が持つ研究資源の共同利用を通じて、各学術分野を先導するさまざまな成果をあげてきました。これらの成果は、毎年開催される大学共同利用機関シンポジウムで紹介されてきました。

一方で、研究予算や研究環境の変化、社会のニーズの多様化、各研究分野の高度化・専門化などにより、大学共同利用機関の役割や課題が機関や機構同士であっても相互に見えにくくなっています。

そこで今回は「大学共同利用機関そのもの」に焦点を当て、各機関が一堂に会するこの機会に、さまざまな視点からその役割や課題を共有し、大学共同利用機関の今後を考えるきっかけとすべく、本シンポジウムを開催します。

タイムスケジュール

開会挨拶	10:30-10:35
	井上 章一 国際日本文化研究センター 所長
来賓挨拶	10:35-10:40
	文部科学省(予定)

Session 1

大学共同利用機関の役割と機能

—大学共同利用機関だからこそできること—

- 趣旨説明 10:40 - 10:45
- 事例紹介 10:45 - 11:33
- パネルディスカッション 11:33 - 12:10
- お昼休憩 12:10 - 13:20

司会 谷口 真人
総合地球環境学研究所 特任教授

1 素粒子衝突の先に見る世界
— Belle II実験にできること

後田 裕
素粒子原子核研究所 教授

2 スピン生命科学
—分子科学と生命科学の融合をめざして

定藤 規弘
生理学研究所 特任教授

3 学術研究における「交わり」の価値
—DNA情報学で生物多様性を俯瞰して

工業 樹洋
国立遺伝学研究所 教授

4 言語資料の共同利用

高田 智和
国立国語研究所 共同利用推進センター長

Session 2

大学共同利用機関の共同利用を支える

—技術系スタッフの役割—

- 趣旨説明 13:20 - 13:25
- 事例紹介 13:25 - 14:15
- パネルディスカッション 14:15 - 14:50
- 休憩 14:50 - 15:10

司会 関野 樹
国際日本文化研究センター 教授

1 核融合研究の最前線を支える技術の力

村瀬 尊則
核融合科学研究所 技術部設計開発技術課 技師

2 高度化する加速器施設 専門性の空白で得た果実

牧村 俊助
素粒子原子核研究所 前任技師

3 南極隕石のキュレーション

中藤 亜衣子
国立極地研究所 南極隕石ラボラトリー 学術支援技術専門員

4 博物館資料撮影の現場から 研究を支える技術職員の役割

酒井 康平
国立歴史民俗博物館 管理部博物館事業課主任 技術職員

5 “文献の共同利用化”という機能

国際日本文化研究センター図書館
江上 敏哲
国際日本文化研究センター 情報管理課 資料利用係長

Session 3

社会とともに歩む大学共同利用機関

—よりよい未来を築くための連携の形を探る—

- 趣旨説明 15:10 - 15:15
- 事例紹介 15:15 - 16:15
- パネルディスカッション 16:15 - 16:40
- まとめ 16:40 - 16:50

司会 駒居 幸
国際日本文化研究センター 特任助教/人文知コミュニケーション

1 大学共同利用機関法人としての KEKの取り組み

足立 伸一
高エネルギー加速器研究機構 理事

2 自然科学研究系の大学共同利用機関が 為すべきこと

中村 敏和
分子科学研究所 特任部長(研究戦略担当)/チームリーダー

3 データサイエンス共同利用基盤施設と 統計数理研究所による データ分析環境の整備と提供
—社会と研究をつなぐ公的統計マイクロデータ—

岡本 基
統計数理研究所 運営企画本部企画室URAステーション主任URA/特任准教授

4 大学共同利用機関としての 博物館の活用と可能性

松尾 瑞徳
国立民族学博物館 教授

開会挨拶 16:50-17:00
土居 守
国立天文台 台長・大学共同利用機関協議会 会長

会場アクセス：国際日本文化研究センター 〒610-1192 京都府京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地

ご来場にはバス等の公共交通機関をご利用ください。

バスはいずれも「桂坂中央」行き、「桂坂小学校前」又は「花の舞公園前」下車で徒歩約5分
シンポジウムの開演・終演時間に合わせた無料送迎バスを運行します(便数と座席には限りがあります)。
詳細は公式Webサイトをご確認ください。

●JR京都駅から

- ・(烏丸中央口)京阪京都交通バス「21」「21A」「26」で約45分
- ・(烏丸中央口・八条口)タクシーで約40分

●JR桂川駅から

- ・ヤサカバス「1」「6」で約30分
- ・タクシーで約20分
- ・JR京都駅からJR桂川駅までは大阪方面行き(普通)で約10分

●阪急桂駅(西口)から

- ・京都市バス「西5」「西6」で約30分
- ・京阪京都交通バス「20」「20B」で約20分
- ・タクシーで約15分

